

# 平成 28 年度『いわき建設事務所 設計時施工技術検討会』実施結果について

平成 28 年 8 月 5 日

いわき建設事務所

## 1 概 要

県道小川赤井平線は、いわき市小川町と同市平を結ぶ路線で、国道 399 号を補完する生活幹線道路である。

小川橋工区は、夏井川に架かる小川橋（昭和 31 年架橋）が老朽橋であることや、道路は狭く屈曲し歩道が未整備であることから危険な状態になっており、安全で円滑な交通を確保するため約 800m の道路改良を計画している。

このうち、実施中である（仮称）小川橋の橋梁詳細設計に含まれる下部工施工計画案が、現場条件に即した設計や工法となっているか検討するため、現場経験豊富なアドバイザーを招き設計時施工技術検討会を実施した。

## 2 設計委託の内容

○橋梁詳細設計（仮称）小川橋 （受注業者：日栄地質測量設計株式会社）

- ・橋梁上部工 L=67.2m、下部工 N=3 基（A1,P1,A2）、仮設工等
- ・旧橋撤去工 L=47.5m

## 3 検討会の内容

○橋梁下部工施工計画案について

【主な検討内容】

- ① 仮設土留工の打込工法や支保工計画について、現場条件や実作業に即した計画になっているか。
- ② 旧橋撤去工法について、経済性或施工性に考慮した計画になっているか。



検討会状況

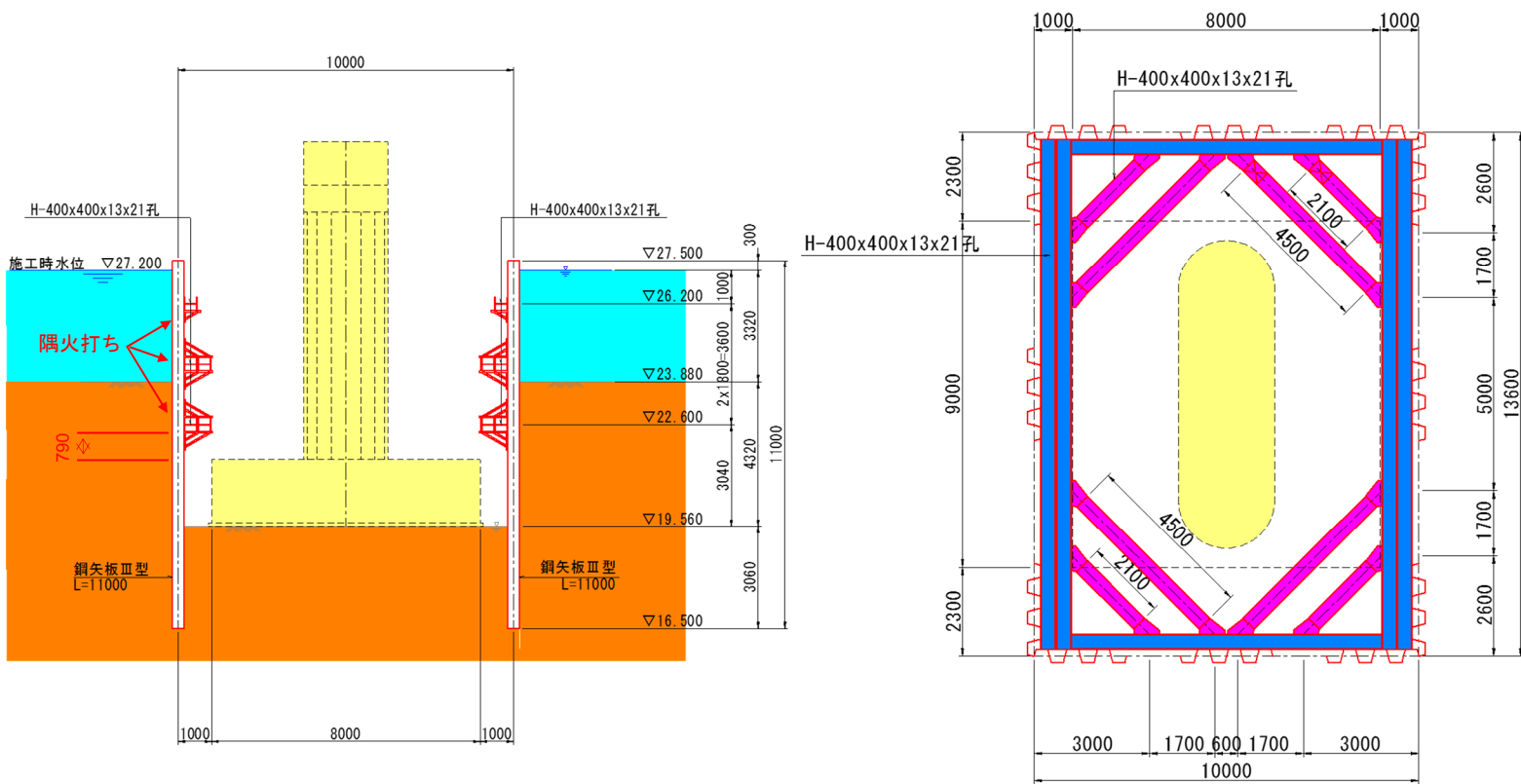
## 4 主な検討結果

- ① 仮設土留工の打込工法について、同一河川の近接工事経験から、ダウンザホールハンマ工法が妥当であると確認された。また、支保工の計画について、これまでの経験により隅火打ちとフーチング上面の離れは 30cm 以上あれば施工可能であることから、切り梁を設けずに隅火打ちを 3 段で行う本計画が妥当であると確認された。
- ② 旧橋撤去について、橋梁を分割し 200t クレーンによる撤去工法が経済性及び施工性に優れることが確認された。（車道橋一括撤去では 650 t クレーンが必要）また、出水期でも施工ができる架設桁撤去工法が施工可能か検討することとした。

【 次頁へ続く 】

## ① 支保工の計画

- ・ 隅火打ちとフーチング上面との離れは30cm以上（79cm）あり施工可能。



## ② 架設桁撤去工法の検討

- ・ 架設桁撤去工法が施工可能か検討を行った。架設桁組立・解体を行うヤードは現道上しかないため、施工期間中は、現道が通行不能となり、上流右岸側の民家への乗り入れができない。また、架設桁が民家と干渉するため、架設桁撤去工法は採用不可とした。

